

海岸構造物の老朽化危険度評価手法の開発

水産土木工学部 漁港施設研究室 佐伯公康, 坪田幸雄

海岸構造物は築造後30～40年を経過したものが多くなり、老朽化が進展しています。特に漁港区域では、堤防のみならず水門、陸閘も数多く立地しており、津波や高潮の来襲前に閉鎖操作を行わなければなりません。老朽化により施設の安定性と操作の円滑性が失われてきています。本調査ではこうしたメカニズムを調査し、機能維持のための点検、評価手法をとりまとめています。また、これら施設の維持管理と緊急時操作は漁村の消防団等によってなされていることから、地元の管理体制のあるべき姿についても考察しています。

水門の老朽状況



水門の例



函渠内のコンクリート剥落



扉体の錆

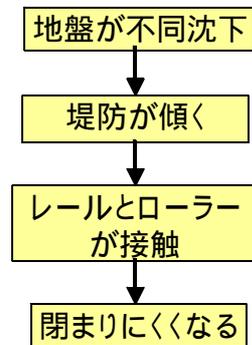
陸閘が動きにくくなる原因



陸閘の例



地盤の不同沈下(測量調査)



ローラーのベアリングの減耗



ローラー位置の不具合



異物の挟み込み